

水産資源（マグロ）調査*

竹内 淳一・阪本 俊雄

本調査は遠洋水産研究所の委託を受け、昭和58年度水産資源（マグロ）調査委託費により実施した。和歌山県勝浦港は、おもに近海マグロ延縄漁業（19～59トン型の小型船）の水揚地であり、クロマグロ、ビンナガマグロ、キハダマグロ、メバチマグロなどの資源評価と漁況予測のための基礎資料の蒐集地として重要である。このため勝浦港は、昭和54年から指定調査地の一つとなり本調査が開始された。

目 的

マグロ資源の変動機構を究明し、マグロ漁業の計画生産ならびに漁況予察の体制を確立するための基礎資料（漁期・漁場別・魚種別の体重組成など）を計画的に収集する。

方 法

昭和58年度水産資源（マグロ）委託調査要綱（陸上）にもとづいて調査を実施した。

勝浦港（指定調査地）に入港するマグロ延縄船（公庁船，試験船，実習船は除く）について次の項目を調査した。

- (1) 水揚物の魚体調査の対象となった航海について船名，総トン数，許可番号，第1回と最終回の操業年月日，水揚年月日，出入港名および出入港年月日
- (2) 魚種，漁期，大洋**，水準***，緯度・経度，漁法，船種，測定単位
- (3) (2)にもとづく魚種別の体重組成

なお上記(1),(2) 項目については，勝浦漁業協同組合畑中利之氏に調査を委託して行った。また上記(3)の項目については，一尾ごとのマグロ類の体重が記載されている勝浦漁業協同組合所有の「単価帳」を利用した。

結 果

昭和58年度に調査を実施した漁船隻数を月別に示したのが表1である。

* 漁業資源調査費による。

** 太平洋，インド洋，大西洋のうち1つを選択する。

*** 緯経度0度を起線としてかぞえた緯度，経度の区画（水準1）あるいは緯度5度，経度10度の区画（水準2）として，漁場の範囲を単位海区（水準1,2）へあてはめる基準である。

調査結果は、「まぐろ漁業漁況調査票」および「まぐろ魚体調査票」に記載し、遠洋水産研究所に報告した。

なお近年、全国的にクロマグロ資源の増加傾向がうかがわれるので、表2および図1に1983年（昭和58年）1月～12月の期間に勝浦港に水揚げされたクロマグロの体重組成を掲げ参考資料とする。体重組成のピークは、7才魚以上の80～100kg、120～130kg、165～175kgおよび185～195kg付近にみられる。

表1 月別の調査隻数

1983年（昭和58年）	4月	16隻
	5月	4隻
	6月	15隻
	7月	17隻
	8月	14隻
	9月	6隻
	10月	6隻
	11月	16隻
	12月	7隻
1984年（昭和59年）	1月	6隻
	2月	18隻
	3月	7隻
	合計	132隻

表2 勝浦港に水揚げされたクロマグロの体重組成（昭和58年1月～12月、内臓を除外した体重である）

階級巾	尾数	階級巾	尾数
36～40kg	1	201～205kg	6
～45	1	～210	2
～50	0	～215	1
		～220	4
～55	0	～225	1
～60	1	～230	1
～65	2	～235	2
～70	5	～240	1
～75	4	～245	0
～80	6	～250	1
～85	29		
～90	22	～255	2
～95	25	～260	0
～100	25	～265	1
		～270	1
～105	11	～275	0
～110	10	～280	0
～115	19	～285	0
～120	26	～290	1
～125	32	～295	0
～130	37	～300	0
～135	24	～305	1
～140	29		
～145	22	合計	506
～150	20		
～155	12		
～160	17		
～165	9		
～170	16		
～175	19		
～180	13		
～185	9		
～190	13		
～195	12		
～200	10		

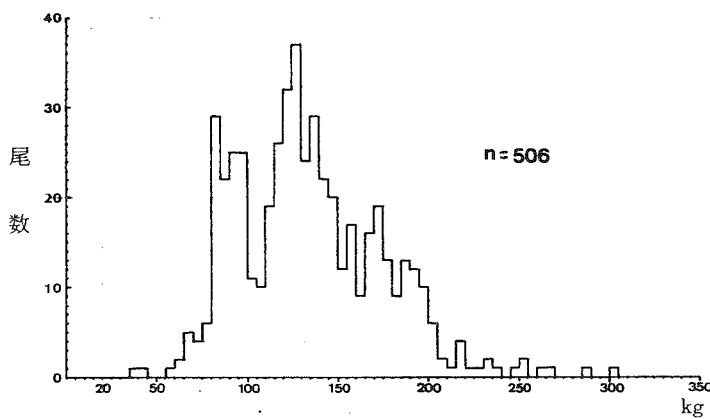


図1 クロマグロの体重組成（勝浦港，1983年1月～12月）